第 18 回　2024 年 5 月

経済産業省公認 全石協news

◎石材業連絡協議会の設立と、能登半島地震の被災地支援について

業界各団体が垣根を越えて諸問題に取り組むために、このたび「石材業連絡協議会」が立ち上がりました。

～ 石材業連絡協議会 ～
（一社）全国優良石材店の会（全優石）、（一社）日本石材産業協会（石産協）、
全国石製品協同組合（全石協）、（一社）全国石材施工協会（施工協会）

去る２月には、本年１月に発生した能登半島地震の被災地支援について、石川県石材組合連合会、全優石、石産協、全石協、施工協会、日本青年会議所石材部会の代表者が集まり、能登半島地震の被災地支援に向けた窓口の一本化などが協議されていました（同支援活動については、日本石材産業協会が登録、派遣の拠点として支援を推進）。

5月 11 日のお見舞い・視察の参加者

そして今月 11 日には、石川県石材組合連合会、全優石、石産協、全石協、施工協会の代表者が能登半島地震で被害が大きい七尾市、能登町、珠洲市の墓地やお寺、石材店をお見舞い、視察してまいりました。

現在、石川県宗教連盟さまが七尾地区にある各寺院に対し、支援活動の希望の有無を確認しております。能登半島は霊園などの墓地は極めて少なく、大多数は小規模の寺院墓地が占めています。支援活動を希望する寺院さまに対しては、被災規模を見定め、石材業界から支援隊を派遣することとなります。その際にスムーズな派遣ができるよう、まずは当支援活動にご賛同いただける方の事前登録をお願いすることになりました。

そして当組合でも先月４月 26 日に「一次登録のお願い」を組合員の皆様に FAX で送信いたしました。今後も募集を継続、実施してまいりますので、つきましては、次ページの返信用紙に必要事項をご記入の上、所定の返信先へお送りいただきますようお願い申し上げます。

全国石製品協同組合　　加盟店各位　　2024年6月吉日

全国石製品協同組合

能登半島地震における墓地復旧支援活動の事前登録のお願い

拝啓　日々ありがとうございます。

さて、本年１月に発生しました能登半島地震における復興の道は、未だ見えておりません。墓所においても倒壊した墓石が多数あります。墓参に来られた方々の二次災害も予想され、できるだけ早く復旧作業に取り掛かる必要があり、まずは業界団体が組織し構成され資金、支援募集等を担うことに致しました。そこで、同地震の墓地復旧支援活動に対する事前登録をお願い致します。実際の支援は地元の要請を受けて実施し、活動の日程等は後日ご案内致します。今回は支援者の名簿作成が目的でございます。何卒ご登録をいただき、支援活動へのご協力をお願い申し上げます。

敬具

支援場所：石川県能登半島　墓所

支援内容：安全な通路の確保、危険な状態である石の移動、むき出しであるご遺骨の保護など
＊接着材等を使用した施工はいたしません

募　　集：作業①…トラックでカートクレーンを持参していただき、石を移動するチーム
作業②…ご遺骨をブルーシートでカバーするチーム
＊7月以降に支援を考えています

費　　用：各団体で負担
食費支給…3,000円／日、宿泊費支給…8,000円／日（作業日のみ）、保険代支給…全額
重機持込費支給…5,000円／1台
＊現地までの交通費は自己負担

問合せ先：(一社) 日本石材産業協会　TEL　０３－３２５１－７６７１　office@japan-stone.org
川本　０９０－４９３５－１５３６

返信FAX　０３－３２５１－７６８１　office@japan-stone.org			
貴社名		会社所在地	
会社電話		会社FAX	
ご担当者名		携帯（必須）	
資　格	□ユニック操作　□玉掛け		
メール（必須）			
登録団体 及び 所属団体 （重複記載可）	支援活動をする際の団体名（　　） □全優石　□全石協　□石材施工協会　□JC石材部会　□石産協 □その他（　　）		
参加可能な 支援内容	作業①　人数　　名　□カートクレーン　□トラック　　トン 作業②　人数　　名		

◎ 2023 年石材輸入統計～大理石は好調、花崗岩が不振。総数量は 18 年連続の減少

財務省発表「日本貿易統計」によると、2023 年（2024 年 3 月 13 日付で確々報として発表された数値）の石類輸入金額は 585 億 1,983 円（前年比 95.5%）、数量は 40 万 6,158 トン（同 89.0%）となり、総数量は 2006 年以降 18 年連続の減少となった。

22 年は円安が進んだこともあって、金額は 2 年連続の増加となったが、23 年は円安が続いているにもかかわらず数量の落ち込みが大きく、再び減少に転じた。

◎花崗岩製品（墓石や灯籠など）の輸入実績

花崗岩製品は前期より 5 ヵ国多い 22 ヵ国から。金額で中国が製品全体の 98%超を占めるが、数量は 18 期連続減少となり、2005 年ピーク時の 4 分の 1 以下まで大きく落ち込んだ（右上表）。

ウクライナは戦時下ながら、2001 年以降、同品目で初の実績となった。

◎国別に見た輸入実績

2023 年の石類輸入金額を国別に合計し、上位 25 ヵ国の過去 4 年間の実績を掲載した（右下表）。今期は前期より 5 ヵ国少ない全 54 ヵ国から輸入された。上位 5 ヵ国は前期と同じ顔ぶれ・順位で、大きな変動は見られなかった。6 位台湾と 7 位インドネシアはいずれも大幅増で、来期はどこまで実績を伸ばせるか注目される。

なお、中国から輸入される花崗岩製品のなかには、中国で加工された外材も含まれる。その原産国の内訳や数量等は不明だが、墓石用に加工されるインド材や日本材、カンボジア材などが相当量含まれていると思われる。

2023 年花崗岩製品の国別輸入実績

（単位：トン、1,000 円、%）

国名	数量	前年比	金額	前年比
中国	263,873	91.0	44,579,600	93.8
インド	2,372	107.5	381,449	105.5
ベトナム	2,634	133.7	176,443	174.8
イタリア	228	120.6	81,095	64.0
ブラジル	19	—	9,409	—
南アフリカ	—	—	6,450	332.6
インドネシア	38	146.2	3,745	120.8
台湾	21	30.0	3,631	41.6
ウクライナ	20	—	2,971	—
シンガポール	—	—	2,684	—
スペイン	7	31.8	2,481	168.0
ドイツ	3	—	2,027	283.5
フィリピン	—	—	1,856	149.8
ギリシャ	18	—	1,829	—
韓国	26	288.9	1,582	18.0
スイス	—	—	1,231	—
オランダ	—	—	483	—
フィンランド	1	100.0	408	125.2
スリランカ	7	—	345	—
アメリカ	—	—	268	1.7
フランス	—	—	261	120.8
タイ	—	—	210	12.7
合計	269,267	91.5	45,260,458	93.9

※花崗岩製品は、墓石や灯籠などの石刻品が中心

過去 4 年間の国別輸入実績

（単位：100 万円）

国名	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
中国	52,226	54,531	47,144	44,896
イタリア	1,689	1,934	1,408	1,045
ベトナム	1,216	1,236	919	998
インド	1,005	1,058	841	761
ブラジル	404	613	516	480
台湾	354	152	136	103
インドネシア	309	221	142	192
フランス	210	350	236	212
ギリシャ	179	214	128	182
スペイン	107	83	81	94
トルコ	98	144	146	103
ドイツ	94	72	159	47
韓国	88	109	167	64
アメリカ	68	72	550	28
ベルギー	61	28	53	23
ポルトガル	60	76	493	79
イギリス	43	40	28	39
アルゼンチン	40	19	15	47
スイス	40	34	67	16
ジンバブエ	36	0	15	0
パキスタン	26	43	20	19
エジプト	19	26	17	23
アイルランド	17	11	10	13
カナダ	12	35	3	11
フィリピン	12	17	20	25

※『月刊石材』2024 年 5 月号（5 月 15 日発行）より抜粋して転載

◎「合祀墓のイメージ」についてのアンケート調査

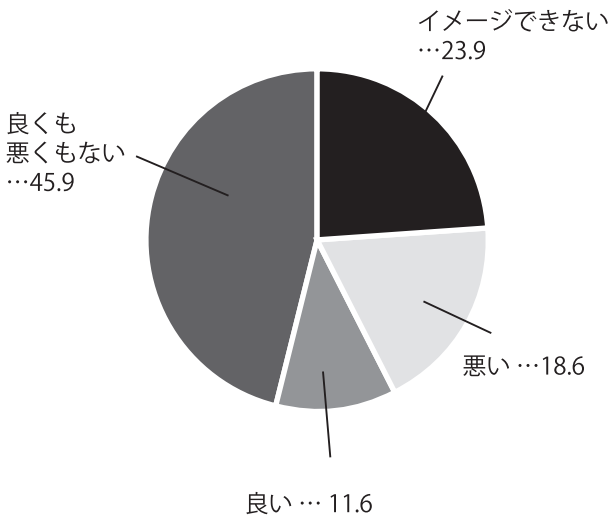
【調査対象】全国　40 歳代以上、男女
【調査期間】2024 年 3 月 1 日～ 3 月 26 日　【調査方法】インターネット調査
【有効サンプル数】 431 名

▷ 7 割以上の方が、“合祀墓”とはどのようなものか知っており、イメージができている。
▷男性と比較し、女性の方が合祀墓のイメージができている。
▷年代別では、40 代が“合祀墓”に対して「良い」イメージを持つ方が多く、50 代以降は「悪い」イメージが強い。
▷「合祀墓に入りたいか？」の質問では、「家族には入って欲しくない」という回答が多かった。
▷合祀墓においても「納骨の立会いを希望する」という意見が多数を占めた。

Q、あなたの合祀墓に対するイメージは？

※合祀（ごうし）墓とは、骨壺からご遺骨を取り出し、他人の遺骨とまとめて埋葬する場所のこと

合祀墓のイメージ（単位：%）



（単位：人、%）

性別	イメージできない	悪い	良い	良くも悪くもない	計
女性	19	18	11	57	103
	18.4	15.5	10.7	55.3	100.0
男性	84	64	39	141	328
	25.6	19.5	11.9	43.0	100.0

（単位：人、%）

年代	イメージできない	悪い	良い	良くも悪くもない	計
40 代	18	11	12	35	76
	23.7	14.5	15.8	48.1	100.0
50 代	34	18	11	69	132
	25.8	13.6	8.3	52.3	100.0
60 代	28	24	16	5	126
	22.2	19.0	12.7	48.0	100.0
70 代	23	27	11	36	97
	23.7	27.8	11.3	37.0	100.0

全体では、「良くも悪くもない」（45.9%）と回答した方が一番多く、次に「イメージできない」（23.9%）、「悪い」（18.6%）、「良い」（11.6%）と続く。

「イメージできない」と回答した 23.9% 以外の方、つまり約 7 割の人が合祀墓とはどのようなものかを理解できていることがわかる。また、「イメージできない」との回答には男女差があり、男性の方がイメージできない方の割合が多かった。

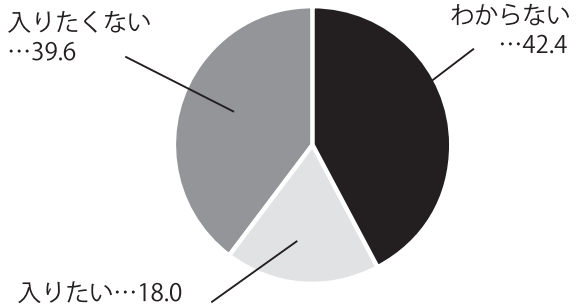
年代別にみると、40 代では「良い」（15.8%）の割合が「悪い」（14.5%）より多かった。一方、50 代から 70 代では、その割合が逆転しており、「悪い」と回答した方の割合が多い。特に 70 代では「悪い」の割合が 27.8%と、「イメージできない」の 23.7%を超えている。

「良い」と回答した方のフリーアンサーでは、“少子化、未婚者の増加などでお墓の維持が難しくなり、合祀墓は合理的だ”という類の回答があった。一方「悪い」と回答した方は、“他人と一緒に入るのは嫌だ”という回答が圧倒的に多かった。

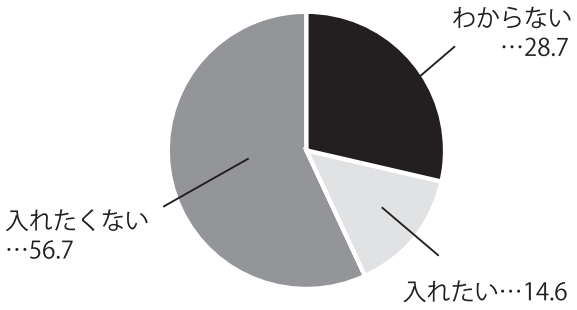
※下記の設問は、合祀墓について何らかのイメージを持っている方（「良い」「悪い」「良くも悪くもない」と回答した方の合計 370 名）が対象

Q　あなた自身およびあなたのご家族が亡くなったあと、合祀されたお墓に入りたい（入れたい）ですか？

あなた自身が合祀墓に入りたいですか？（単位：%）



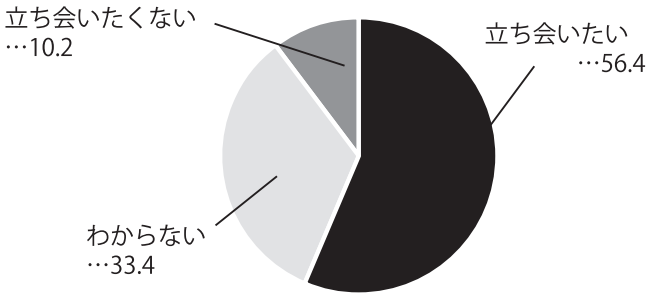
ご家族を合祀墓へ入れたいですか？（単位：%）



自分自身については、「わからない 42.4%」、「入りたくない 39.6%」、「入りたい 18.0%」という順番となるが、「ご家族を入れたいか？」の質問では、「入れたくないが 56.7%」と半数を超えている。

Q　合祀墓へ納骨する際、納骨に立ち会えないケースがありますが、納骨への立ち会いについてはどう思いますか？

合祀墓の納骨への立ち合い？（単位：%）



合祀墓は一般墓所と違い、必ず納骨に立ち会える訳ではなく、霊園の管理事務所などに遺骨を引渡し、納骨をしてもらうケースが多いが、半数以上の方が「立会いたい」（56.4%）と回答し、「立会いたくない」（10.2%）を大きく上回っている。

《まとめ》

今回のアンケートでは、合祀墓を「イメージできない」と回答した方が 23.9%で、逆に約 7 割の人が合祀墓がどのようなものかイメージできていることがわかりました。一般墓（個別のお墓）が主流の時代では、“合祀”という言葉すら理解できない人は多かったです。しかし、近年のお墓の承継者問題に伴い、「永代供養墓」と呼ばれる承継者が不要なお墓の形態が増え、その際、遺骨を個別で埋葬するか、合祀するかの選択が必要となることから、今回の結果は、「個別か合祀かの選択を迫られる一般消費者の方々が増えている」ということを意味しており、それだけ承継者問題が切実な問題として顕在化していることを表しています。

また、「合祀墓に入りたい（入れたい）か」の設問では、自分自身の場合は迷っても、「家族は入れたくない」という明確な意思表示が確認できました。時代の流れとして合祀墓という新し形を受け入れていかなければならないとはわかっていても、他人の遺骨と一緒になることに拒否感を覚える人は多いようです。それを裏付ける回答として、合祀墓への納骨立会いの有無としては、「立ち会いたい」という人が、そうでない人と比べて圧倒的に多く、家族のことは従来通り弔いたいという意識が強いことがわかりました。

経済産業省公認　20121004情第5号
全国石製品協同組合
お問い合わせ等は、☎ 03-5733-3776
〒 105-0012　東京都港区芝大門 2 丁目 9 番 14 号 5 F
FAX：03-5733-3778　　E-mai：info@zenseki.or.jp
https://zenseki.or.jp/